

小学校

s 1-2

順序数

1 学年

【ねらい】

個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる。

【特徴】

- ◇ 対象の子どもの絵に帽子をかぶせて表示することができます。
- ◇ 並んでいる子どもの前後を、カーテンで隠すことができます。
- ◇ ~人、~人目を選択することができます。

【関連する単元】



【活用場面】 導入段階の課題提示、算数的活動の後の検証



数えるものの集まりを明確に捉え、より深い“数”の意味理解を図ります
並んでいる子どもの一部分(最前列から、もしくは最後列から)をカーテンで隠すことができるため、順番についての全体と個数との関係を視覚的に確認しながら学習を進めることができます。

- ◇ 並んでいる子ども全体を表示し、数詞を順番に対応させていきます。
- ◇ 並んだ順に対応した数を表示し、全体数を確認します。
- ◇ 児童は、プリントや自らかいた図などを用いて、“前から○人目”“後ろから△人”を考察し、印や囲みを入れます。



- ◇ 全体数の意味理解の学習後、カーテンを移動させ、隠れている部分の数を考えさせます。
- ◇ 学級の児童でグループを作り、まっすぐ並んだとき自分が何番目か、また、後ろに何人いるかなどを確認するような算数的活動を行います。



- ◇ 全体数を知らせずに、前後を隠して提示し、どの部分の数が分かれば総数が分かるかを考えさせます。(または、総数が分かれば前後の人数が分かることを考察します。)
- ◇ このとき、自分のノートに部分と全体の関係などの図をかいて考えさせ、順番を表す数についての一層の理解を図ります。